

別府市の課題

まちづくり

- ・ 人口減少社会への対応（SDGs、コンパクトシティ、地域コミュニティの弱体化）
- ・ 地域資源を活かしたまちなか再生
- ・ 公共施設の再編
- ・ 市民主体のまちづくり、市民と行政の協働

教育

- ・ こどもの居場所づくり
- ・ 地域ぐるみの子育て、見守り体制
- ・ いじめ、不登校、学力低下
- ・ 国際交流を通じたまちの未来を担う国際的視野を持った人材の育成

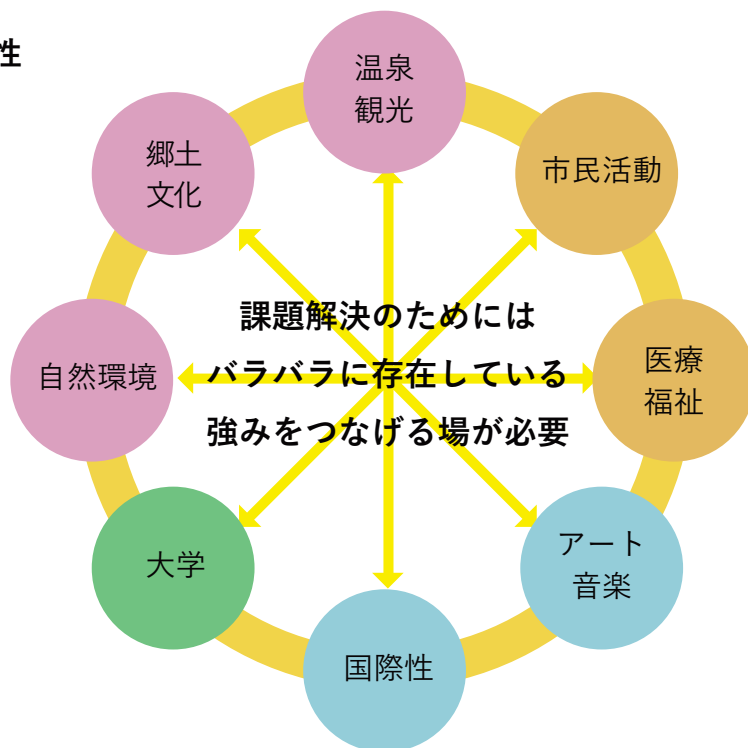
福祉

- ・ 健康志向に対応する温泉治療や長期滞在の需要促進
- ・ リタイア世代の生きがいづくり、活躍の場
- ・ 健康寿命延伸
- ・ 少子高齢化による扶助費の増加

産業

- ・ 観光ニーズの多様化
- ・ 観光産業を基軸とした新産業創出（農林水産業、製造業、IT産業等）
- ・ 若年層、外国人の地元雇用の受皿不足
- ・ 新しいビジネスのチャレンジの場づくり

別府市の強み・独自性



国内外の図書館の傾向



課題解決型図書館  
ニューヨーク公共図書館

開館：1911年  
面積：34,800m<sup>2</sup>  
蔵書数：約250万冊(本館)  
開館時間：平日10:00-18:00  
火水10:00-20:00  
日 13:00-17:00

知の殿堂として、市民と知をネットワークする様々な取り組みを行う。歴史的・芸能文化資料の収集保存、多様な市民活動、文化活動、起業ビジネス支援、デジタルライブラリー・商用データベースの無償提供、デジタル格差解消やイノベーション教育、障害者の読書支援など、あらゆる市民の知へのアクセスを支える。



ビジネス支援図書館  
紫波町図書館

開館：2012年  
面積：1,440m<sup>2</sup>  
蔵書数：約9.5万冊  
開館時間：平日10:00-19:00  
土日10:00-18:00  
月曜休館

官民連携によるオガールプロジェクトにて建設された図書館。農業が盛んな紫波町ならではの農業支援、こどもの教育を柱に掲げ、農業分野に特化した蔵書やビジネス支援、司書が図書館から出るアウトリーチ活動、隣接する産直と連携した販売支援などを行う。イベント収益の一部を図書館の資料費に還元。



交流型図書館  
瀬戸内市民図書館

開館：2016年  
面積：2384m<sup>2</sup>  
蔵書数：約20万冊  
開館時間：10:00-18:00  
木金10:00-19:00  
月曜休館

計画の段階から市民参加の意見交換・勉強の場を設け、施設サービス、建築・情報デザイン、運営などを共創。「持ち寄り・見つけ・分け合う広場」をコンセプトに、市民が情報ニーズを持ち寄り、持ち寄った課題に対し図書館で答えやヒントを見つけ、気づきやアイデアを市民で「分け合える施設運営を行う。



魅力創造型図書館  
LocHall Library

開館：2019年  
面積：7,000 m<sup>2</sup>  
蔵書数：  
開館時間：平日8:00-22:00  
土 9:00-17:00  
日 13:00-17:00

図書館、美術館、民営コワーキングスペースの3つの機能が融合。新しい知識を得て挑戦し、イノベーションを生む研究室でもある。デジラボ、ライティングラボ、フードラボ、ゲームラボ、タイムラボ（まちの風土・歴史研究）、フューチャーラボ（まちのみらい研究）の6つのラボで、市民を刺激し共創する場。

≫ 図書館が地域の課題解決やコミュニティの核になりはじめている

別府の強みや独自性と、人・知・社会活動が繋がる図書館

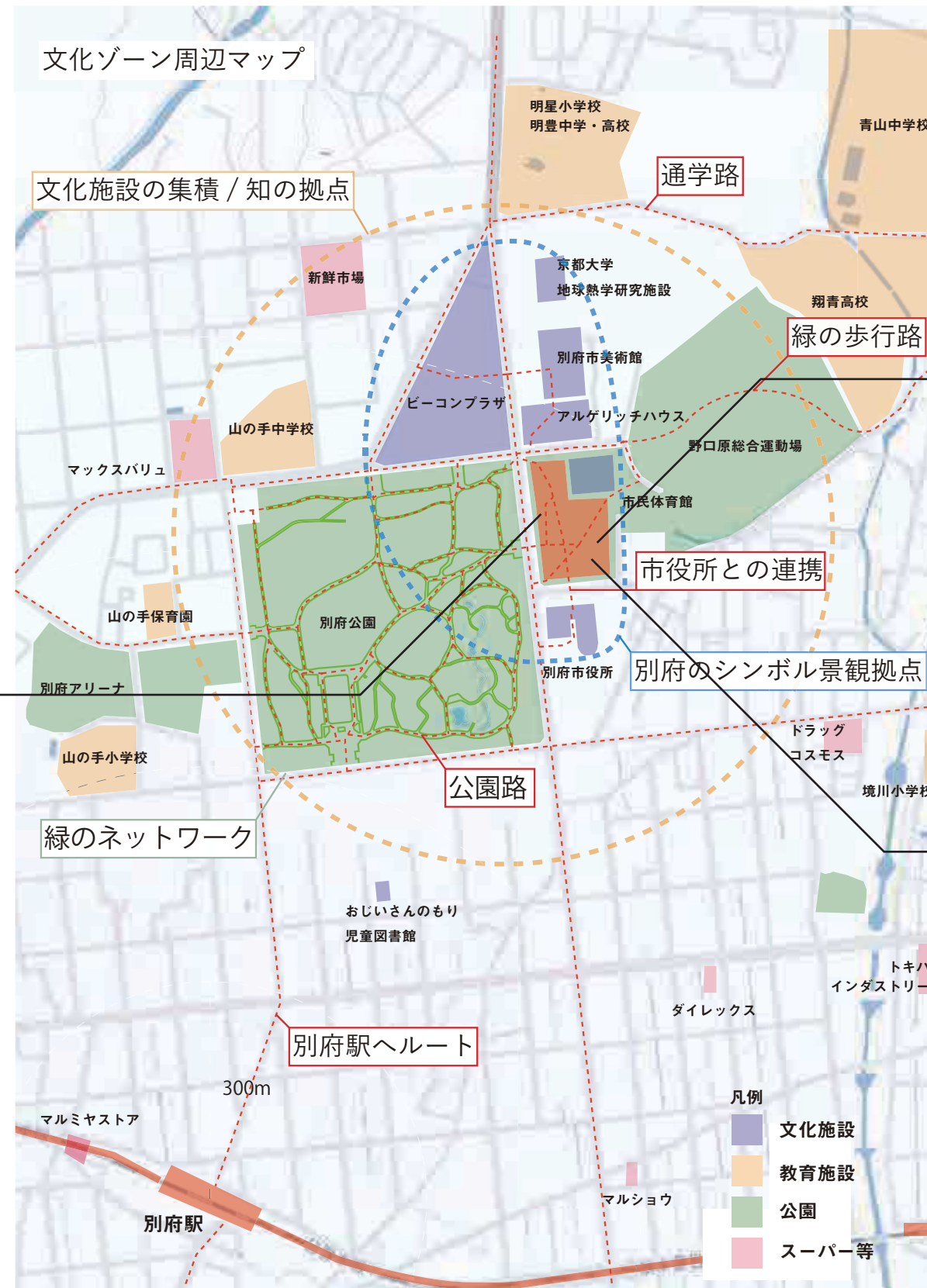
個人の知的好奇心を満たし、新しい知識や人との出会い、参加の動機やきっかけを生む図書館を目指します。本があることを介して、バラバラに存在している別府の強みや独自性をつなぎ、多様な人々が知を共有し、共創することで、別府の未来をつくる図書館をつくります。

- ・周辺の公共施設、学校との連携を図る
- ・別府公園との連動
- ・別府の多様性を凝縮した機能/ゾーニングを検討
- ・図書館に付随する機能（教育、福祉、産業、アート等）
- ・本やボーダレスアート※を介して、機能・内部空間、外部空間がゆるやかにつながり、分野を超えて多様な人々が共創する



外観イメージ。既存樹木を避けながら建物が建ち、ゆるやかに屋内外が繋がり、公園内にも活動が広がっている。

※ボーダレスアート：文化の違い、障がいの有無、年齢、性別にかかわらず、個性を発揮できるアート表現。



それぞれの機能/空間を分断せず、図書館の開架スペースを通して各機能（読書スペース、物販スペース、カフェ、キッズスペースなど）がゆるやかに繋がる一体的な空間。昼間は主に高齢者や子育て世代の利用を想定。



夜は学生や社会人の勉強スペースやセミナー、プレゼンテーションの場、またカフェがバーに変わるなど、同一空間であっても時間によって機能や使い方が変化する。

